

米沢工業会の歩み

明治 43 年(1910)	第 7 高等工業学校として、米沢高等工業学校の設置を公布(3 月)、入学許可(9 月)。
大正 12 年(1923)	柴田校長の提案により工業会創設事務を開始。
大正 13 年(1924)	2 月 11 日 米沢工業会創設、初代会長柴田才一郎校長(会員 601 名、入会金 2 円、年会費 2 円)。 米沢支部発会式、静岡支部設立(4 月)。東海支部設立(5 月)。 「米沢工業会誌」第 1 号創刊(9 月 15 日)。 第 1 回定期総会(10 月)。
大正 14 年(1925)	会誌年 4 回、第 4 号は「母校創立 15 周年記念号」。 名古屋において臨時総会(4 月)。新潟支部・大連支部設立(7 月)
大正 15 年 昭和元年(1926)	関西支部発会(6 月)。青島支部発会(8 月)。上海支部発会(9 月)。 北九州支部発会(11 月)。
昭和 2 年(1927)	大場成実校長会長就任(6 月)。北海道第 1 支部発会(9 月)。
昭和 3 年(1928)	仙台支部設置(2 月)。東京市にて臨時総会(4 月)。 大阪市にて臨時総会(12 月)、会費年 3 円に値上げ。
昭和 4 年(1929)	和歌山支部発足(3 月)。山陽支部発会(4 月)。横浜支部創設、京浜支部は東京支部と改称(6 月)。京城支部、山形支部発会(12 月)。
昭和 5 年(1930)	会誌年 3 回、18 号「母校創立 20 周年記念号」(7 月)。 台湾支部発会(10 月)。福島支部発会(12 月)
昭和 6 年(1931)	茨城支部発会、栃木支部発会(4 月)。 上越線全通記念に長岡市において臨時総会開催(9 月)
昭和 8 年(1933)	北陸支部設立(4 月)。北海道第 2 支部設立、函館支部発会(7 月)。 青森支部発会、秋田支部発会(8 月)。 群馬支部、信州支部発会(11 月)。 第 10 回定期総会、終身会費制採用終身会費 40 円(10 月)。
昭和 10 年(1935)	京都支部発会(9 月)。会誌第 33 号別冊付録として「米沢高等工業学校 25 年略誌」を刊行(9 月)。新五色に「五色寮」建設 3 食付一泊学生 50 銭、職員、卒業生 70 銭。
昭和 11 年(1936)	年会費 4 円に値上げ。南九州支部、西九州支部発会(4 月)。 「我等の校歌レコード」発売、1 枚 65 銭。 新京支部、奉天支部発会(5 月)。山梨支部発会(6 月)。 樺太支部、旭川支部、北海道第 3 支部発会(8 月)。山口支部発会(9 月)。香川支部発会(10 月)。熊本支部発会(11 月)。 愛媛支部、徳島支部、山陰支部発会(12 月)
昭和 12 年(1937)	会誌年 4 回に増刊、咸鏡支部発会(4 月)。沖縄支部、千葉支部発会(6 月)兵庫支部発会、関西支部は大阪支部と改称(11 月)

昭和 13 年(1938)	庄内支部、岐阜支部発会(3月)。三重支部発会、東海支部は愛知支部と改称(4月)東京集会所開設(6月)福井支部、金沢支部、富山支部発会(北陸支部は解消)(7月)
昭和 15 年(1940)	華北支部設立(2月)。岩手支部発会(7月)。年会費 6 円に値上げ、終身会費制廃止、会員名簿発行。
昭和 16 年(1941)	会誌年 6 回に増刊、戦没卒業生慰霊祭(9月)。
昭和 18 年(1943)	新会長に森平三郎校長就任(10月)。
昭和 19 年(1944)	米沢工業専門学校に改称(4月)。 会誌第 71 号(7月 10 日刊 4 頁)で停刊。
昭和 20 年(1945)	東京集会所戦火により焼失(1月)。敗戦により外地支部 11 は消滅、内地支部 32 も機能停止(8月)。
昭和 21 年(1946)	会誌復刊第 72 号4頁(6月)、第 73 号(9月 30 日刊)はガリ版刷りざら紙1枚(9月)。 会長制廃止、卒業生による理事長制採用、初代理事長長沢恭助氏、入会金 10 円、年会費 30 円に値上げ(10月)。
昭和 22 年(1947)	母校大学昇格期成同盟会結成(4月)。 入会金 20 円、年会費 100 円に値上げ(7月)。
昭和 23 年(1948)	山形大学創設期成同盟会結成(9月)。
昭和 24 年(1949)	大学設置委員会で山形大学の創設を決定(3月)。 工学部創設祝賀会(4月)。第 2 代理事長窪嶋誠二氏就任、年会費 200 円に値上げ。
昭和 25 年(1950)	内田伝一氏理事長就任(6月)。
昭和 26 年(1951)	窪嶋誠二氏理事長就任(5月)。全国に 44 支部活動。
昭和 27 年(1952)	沢恭助氏理事長就任(5月)。
昭和 28 年(1953)	年会費 300 円に値上げ(7月)。 工業短期大学部期成同盟会結成(7月)。
昭和 29 年(1954)	桜井克巳氏理事長就任(5月)。
昭和 30 年(1955)	沢恭助氏理事長就任(5月)。 常務理事制設置安彦勝雄氏就任(6月)。 新庄支部発会(9月)。北信州支部創設(10月)。
昭和 31 年(1956)	福島支部は福島北、南、会津、浜通の 4 支部に分割(4月)。
昭和 32 年(1957)	工業短期大学部完成祝賀会(3月)。 理事長に戸田勇造氏就任、年会費 400 円に値上げ(4月)。
昭和 33 年(1958)	終身会費復活(1 万円 3 年分納)(4月)。 母校創立 50 周年記念会結成。
昭和 35 年(1960)	母校創立 50 周年記念行事(大竹校長胸像除幕式、物故者慰霊祭、記念式典、記念講演会、工業会大懇親会、奇術公開等)、 「山形大学工学部 50 年史」刊行(10月)。

昭和 37 年(1962)	準会員制設置、終身会費 5,000 円に改正。
昭和 38 年(1963)	年会費 500 円に値上げ(5 月)。大学院設置期成同盟会結成。
昭和 39 年(1964)	大学院工学研究科設置(4 月)。 工業短期大学部創立 10 周年記念式典(5 月) 母校創立 50 周年記念図書館落成式(5 月)。
昭和 40 年(1965)	創立 50 周年記念五色寮完成(1 月)。 年会費 700 円終身会費 7,000 円に改正(5 月)。
昭和 43 年(1968)	埼玉支部発会(4 月)。
昭和 44 年(1969)	年会費 1,000 円、終身会費 10,000 円に値上げ(5 月)。
昭和 45 年(1970)	理事長に売間信男氏就任(5 月)
昭和 46 年(1971)	理事長に渋谷誠助氏就任。
昭和 47 年(1972)	常務理事に平田栄氏が就任(5 月)。 本会創設 50 周年記念事業準備委員会発足(6 月)。
昭和 48 年(1973)	本館が国の重要文化財に指定(6 月)。 準備委員会の中に「法人設立」「保養センター建設」「募金計画」の各 専門委員会を設ける。年会費 2,000 円、終身会費 20,000 円に値上 げ。 社団法人設立文部大臣より認可(12 月)。 法人初代理事長に渋谷誠介氏就任(12 月)。
昭和 49 年(1974)	東京で社団法人設立臨時総会、終身会費制解消、前納会費制実 施、準会員制廃止、賛助会員制設置、正会員年会費 2,000 円、賛助 会員年会費 3,000 円、支部再編成(全国 23 支部に統廃合)。 本会創設 50 周年記念事業実行委員会発足(6 月)。 創設 50 周年記念祭開催。小野川温泉にて前夜祭(10 月 12 日)、 母校にて記念式典、松川河畔にて祝賀会、市民文化会館にて記念 講演会(10 月 13 日)。
昭和 50 年(1975)	記念事業天元台セミナーハウス建設工事起工式(6 月)。 上棟式(10 月 10 日)。本会のシンボルマーク新制定(10 月)。
昭和 51 年(1976)	天元台セミナーハウス完成延期、天元台セミナーハウス運営委員会 発足(10 月)。
昭和 52 年(1977)	天元台セミナーハウス完成。市民文化会館にて記念展覧会(10 月 13～15 日)。天元台において竣工式、祝賀会開催(10 月 16 日)。 天元台セミナーハウス開館(12 月 1 日)(天元台に管理運営を委託)。 会報第 8 号「天元台セミナーハウス完成記念号」発行、セミナーハウ スの全容紹介(12 月)。
昭和 53 年(1978)	天元台セミナーハウス完成披露「会員の集い」3 回にわけて開催(7 月)。米沢八幡原中核工業団地企業誘致運動に協力。

昭和 54 年(1979)	「昭和 54 年度版会員名簿」刊行、頒布価格」2,000 円(4 月)。 記念事業募金終結(8 月)。定例総会、記念事業総括報告、本年度より卒業満 50 年、満 25 年の会員に記念品を贈呈(10 月)。 母校本館重文修復工事を文化庁直轄にて着工(11 月)。
昭和 55 年(1980)	本会事務室を臨時に旧図書館に移転(3 月)。母校に建築工学科の新設を提唱、運動開始(5 月)。
昭和 56 年(1981)	山形大学キャンパス統合問題起こり反対運動を展開、米沢キャンパスは現状のままにて解決(7~11 月)。 法人第2代理事長に我妻忠氏就任(10 月)。
昭和 57 年(1982)	五色寮を本会に移管(4 月)。五色寮運営委員会発足(9 月)。短大改組、情報工学科新設に協力。
昭和 58 年(1983)	昼夜開講 4 年生課程の B コース設置(4 月)。重文本館完成記念事業募金開始(5 月)。重文本館修復完成祝賀会(6 月)。事務室本館内に移転(7 月)。重文本館完成記念事業(記念碑除幕式、重文披露、記録映画上映、祝賀会開催)(10 月 16 日)
昭和 59 年(1984)	天元台セミナーハウスの経営が KK 天元台委託から本会直営となる(9 月)。第 3 代常務理事に平亨氏が就任(11 月)
昭和 60 年(1985)	事務処理カードシステムを改め電算化開始(7 月)。天元台セミナーハウス台地造成(10 月)。大学院博士課程設置運動開始、公開講座支援活動開始(10 月)。
昭和 61 年(1986)	天元台セミナーハウスを木村弁護士立会いのもと丸島製作所に売却(10 月)。国際交流(中国吉林東北電力学院・吉林化工学院との姉妹校活動)支援開始(11 月)。
昭和 62 年(1987)	法人第 3 代理事長に鈴木道也氏就任(10 月)
昭和 63 年(1988)	定款の一部改正(10 月)。 創立 80 周年記念事業計画設定、青春の詩碑募金開始(10 月)。
平成元年(1989)	会員名簿発行(10 月)。 第 4 代常務理事に神保俊一郎氏就任(10 月)
平成 2 年(1990)	「オーム会」を発展的に解消「オーム&ビット会」発足(4 月)。母校創立 80 周年記念事業に協力(記念植樹、青春の詩碑建立・工学部 80 年史・目でみる 80 年史「無窮」刊行、記念式典)(10 月)。
平成3年(1991)	会費等検討委員会中間報告(10 月)。 法人第 4 代理事長に平亨氏就任
平成4年(1992)	中国吉林の両姉妹校より本会の助成により留学中の 11 人修士課程修了。客員研究員交流助成開始。電気系 70 周年記念奉祝(9 月)。 法人第 5 代理事長に藤沢忠氏就任(9 月)
平成 5 年(1993)	電気系学科記念植樹(5 月)。旧制高工・工専記念準備検討委員会発足(12 月)。

平成 6 年(1994)	五色寮調査研究委員会発足(1 月)。記念室準備委員会終了(10 月)
平成7年(1995)	法人第6代理事長に近野正氏が就任(10 月)旧制米沢高等工業学校・米沢工業専門学校・山形大学工学部・山形大学工業短期大学部記念室設置実行委員会が新たに発足する(12 月)
平成 8 年度(1996)	母校山形大学工学部キャンパスの山形地区への全面移転統合問題に関する陳情書を、理事会および評議員会の総意として工学部長に提出する(9月)第4代常務理事に山岸圓治郎氏就任(10 月)新卒業生と入学生に記念テレホンカードを贈呈。
平成 10 年(1998)	学園祭『吾妻祭』に参加(重文内に工業会展示室を開設)。
平成 11 年(1999)	事務電算システム全面的な再構築完了(3月)。会員名簿(母校創立 90 周年記念)発行(6月)。法人第7代理事長今井昭二氏が就任(10 月)。
平成 12 年(2000)	母校創立 90 周年記念事業に協力(記念式典、記念講演、祝賀会などの行事と本部総会を同日・同会場で開催)(10 月)。“重要文化財”記念展示館設置完了・開館(10 月)。会誌 138 号(母校創立 90 周年記念)刊行。
平成 13 年(2001)	入学者選抜試験合否過誤・対策(5月)。工学部支援に関する答申(工学部支援の在り方検討委員会渡辺克巳委員長報告(8月))。(社)米沢工業会長期事業活動方針について答申(長期ビジョン作成委員会委員長開沼啓副理事長報告(10 月))。
平成 14 年(2002)	「部活動の活性化と会費納入率向上について」の取り組みのまとめ(支部長連絡協議会議事録 10 月)。新卒業生に雪の重要文化財(旧米沢高等工業学校本館)の写真入マウスパットを記念に贈呈(3 月)。新入学生(新賛助会員)に絵ハガキセット「歴史の街・文化の街」を贈呈(6月)。
平成 15 年(2003)	平成 15 年版会員名簿(本会創設80周年記念号)発行(7月)
平成 16 年(2004)	国立大学法人化(4月)。創立 100 周年記念募金活動を第一次募金として平成 16 年(2004)年9月1日～米沢工業会募金目標額 97,500 千円で活動開始。米沢工業会創設 80 周年記念行事(式典、講演会、祝賀会)を挙げる(10 月)。記念講演の講師は元米沢有為会会長で、日本経済センター社長本間敏雄(D16)「日本新生の鍵“普通の国家になれ”」のテーマで開催。米沢工業会創設 80 周年記念号(米沢工業会報第 49 号)発行(12 月)。
平成 17 年(2005)	博士前期課程にものづくり技術経営学専攻(MOT)新設(4月)。常務理事に山崎洋一郎氏が就任(10 月)。

平成 18 年(2006)	<p>社団法人米沢工業会の個人情報保護規定を平成 18 年度定例総会において決議(10 月)。母校創立 100 周年記念会館の設計者の選定は公募型プロポーザルを実施し、高宮眞介氏に決定(12 月)。</p>
平成 19 年(2007)	<p>山形大学工学部、大学院理工学科学位記授与式のあとに保護者も臨席して米沢工業会への入会式を実施(3 月)。工学部に於ける教養教育科目として開校された第 1 回「企業を担う先輩達」の授業を支援。講師は企業のトップの方々(4 月～7 月)。 法人第 8 代理事長 結城経治氏が就任(10 月)。第 1 回ホームカンニングデイを工学部と協賛し開催する(10 月)。重文本館展示室に高橋朗氏の業績展示室を開設(10 月)。</p>
平成 20 年(2008)	<p>山形大学工学部・大学院理工学研究科学位記授与式に於いて今年度から学業以外で顕著な活動を行った 3 個人・3 グループを表彰(3 月)。工学部に於ける教養教育科目として開催された第 2 回「企業を担う先輩達」の事業を支援、講師は企業トップと共に第一線で活躍されているの方々(4 月～7 月)。「京浜オーム・ビット会」からより広域性を持つ「首都圏オーム・ビット会」に変更(7 月)。第 2 回ホームカンニングデイを工学部と協賛し開催する(10 月)。五色寮及び用地を 100 周年記念会館建設に伴い、学生及び教職員の駐車場とする大学の申し出を受けることを決定(10 月)。</p>
平成 21 年(2009)	<p>会費検討委員会工藤委員長より結城理事長に答申(7 月)。 定例総会通常外決議事項(①会員資格の見直し:現職の教職員を正会員とする。「前納」を「一括納入」とする。一括納入は 10 年分とし、爾後 11 年分の会費納入と見做し運用とする。 他②五色寮用地一部工学部へ寄付(10 月)。山形大学工学部合同企業説明会を共催(11 月)</p>
平成 22 年(2010)	<p>フレックスコース・システム創成工学科開設(4 月)。母校創立 100 周年記念号の米澤工業会誌№147 を発行(6 月)。会費納入を郵便局及びコンビニエンスストアから振込み実施(6 月)。第 3 回釣りキチ能登全国大会開催(6 月)。定例総会通常外決議事項(①定款第三章 会員 第 6 条の改定(大学に在職する教職員をも正会員とする等)②新法人制度検討委員会の設置を決議(10 月)。山形大学工学部百周年記念会館落成記念式典を大示範教室で開催(10 月 9 日)、同祝賀会・懇親会をグランドホクヨウ米沢で開催(10 月 9 日)。米沢工業会事務局が重文本館から百周年記念会館へ移転(10 月)。百周年記念会館落成記念号の米澤工業会報第 55 号を発行(12 月)。新法人制度検討委員会開催(12 月)。</p>

平成 23 年(2011)	東日本大震災(3月11日)。「米沢工業会首都圏ゴルフクラブ」(TH会ゴルフクラブを改称)設立(3月)。百周年記念事業総括・東日本大震災特集の米澤工業会誌№148を発行(6月)。平成23年版山形大学工学部創立100周年記念号会員名簿発行 頒布価格5,000円(8月)。米沢工業会震災基金の創設(10月)。新法人作業部会発足(11月)。
平成 24 年(2012)	新法人移行は「一般社団法人」申請を決定(10月)。選挙管理委員会設置(11月)。
平成 25 年(2013)	合同新年会にて米沢工業会震災基金を工学部へ寄付(1月)。一般社団法人米沢工業会平成25年度代議員選挙立候補全員無投票当選(3月)。リーディング大学院設置(4月)。米沢工業会会誌会報合併号を発行(3月)。一般社団法人に移行し一般社団法人米沢工業会となる(8月)。総会にて理事20名が選任され、理事会にて山崎洋一郎理事長・本木満副理事長・栗山雅文副理事長・鈴木利雄常務理事の三役決定(10月)。
平成 26 年(2014)	本会設立90周年記念講演会・式典・祝賀会を開催(10月10日、グランドホクヨウ米沢にて)。企画委員会設置・開催(12月)。
平成 27 年(2015)	国立科学博物館企画展「山形から未来を照らすサイエンス～見る・聞く・感じるイノベーション」開催(5月2日～6日)。総会で役員改選され、理事会で山崎洋一郎理事長・本木満副理事長・佐藤慎吾副理事長・鈴木利雄常務理事の三役決定(10月)。
平成 28 年(2016)	先輩奨学金(樋口昌宏奨学金)給付開始(8月)。卒業満25年記念品贈呈再開(5月以降)。重要文化財「旧米沢高等工業学校本館」ライトアップ開始(8月)。会員資格作業部会設置(9月)。平成28年度版同窓会名簿発行(12月)。
平成 29 年(2017)	工学部が、高分子・有機材料工学科、化学・バイオ工学科、情報・エレクトロニクス学科、機械システム工学科、建築・デザイン学科、システム創成工学科に改編され定員650名。大学院が理工学研究科(工学系)と有機材料システム研究科となる(4月)。 総会で定款を改定し、学部生が準会員に・院生が正会員に、現職教職員は正会員か賛助会員の選択を決議。役員改選され、理事会で上村勘二理事長・齋藤政敏副理事長・新関久一副理事長・安部与市右衛門常務理事の三役決定(10月)。会員管理システム更新(11月)。第1回大学との懇談会を開催(12月)。
平成 30 年(2018)	会員規程、会費規程を改定し、現教職員が正会員か個人賛助会員として入会。個人賛助会員会費を2,000円とする(10月)。

<p>平成 31 年 令和元年(2019)</p>	<p>課題検討作業部会(会員管理システム、事業年度期間の変更、広報、学生との交流)4部会設置(3月)。代議員選挙(7月)。学生との交流部会が吾妻祭に参加(10月)。 役員が改選され、理事会で上村勘二理事長、齋藤政敏副理事長、森秀晴副理事長、大沼正国常務理事の三役となる(11月)</p>
<p>令和 2 年(2020)</p>	<p>HP リニューアル(4月)。第1回オンライン新社会人歓迎会開催(4/28)。新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン理事会(8月～)、オンライン支部長情報交換会(8月)、オンライン支部総会(東海・中国・関西支部、11月)を開催。</p>